

長崎の林業

小曾根星堂書



しゃくなげ高原のツクシシャクナゲ（諫早市高来町）

5

目次

● 林政だより	令和2年度ながさき森林環境税事業の概要	2~3
● 特集記事	五島の木々を活かす、木々に生かされる 民宿『かどもち』と『三兄弟工房』	4~5
● 林業普及だより	労災防止のABC	6
● 地方だより・県央	ツクシシャクナゲの植樹が行われました！	7
● 地方だより・壱岐	～活躍人紹介～ 壱岐市森林組合	8
● 林業団体情報	森林組合は長崎県の森林を守り育てています 長崎県森林組合連合会	9
● センターだより	ヒノキエリートツリー検定林の状況	10
● 紹介コーナー	ミライon 図書館	11
● シイタケのコマ打ち体験 in 佐世保中央保育園		12



2020
No.776

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

令和2年度ながさき森林環境税事業の概要

森林は、水源のかん養など県民生活に重要な公益的機能を有しています。

このかけがえのない森林を次世代へ守り、引き継いでいくために、その公益的機能の恩恵を享受している県民が広く負担し、社会全体で森林を支えていく新たな仕組みとして、平成19年からながさき森林環境税が始まりました。

令和元年度から始まった新たな森林管理システムも徐々に進んでおり、国の森林環境譲与税事業との住み分けを実施しつつも、既存の事業計画に影響がでないよう事業を編成しています。

令和2年度の主なながさき森林環境税事業内容と予算(税負担分)は下記のとおりです。

①未整備森林緊急整備

伐捨間伐を支援する事業です。経営計画内の森林を森林経営が可能な林分へ移行させていくために伐捨間伐を支援します。



整備された森林

令和2年度事業費 788,910千円
令和2年度計画面積 400ha

②環境保全林緊急整備

里山の再生を図るため、天然林の整備を実施しています。市が取りまとめを行い、県が発注する事業です。なお、荒廃した人工林の整備については、国の森林環境譲与税事業との調整により、令和元年度までに計画したものをもちって終了します。

また、事業者が直接申請できる申請型や、境

界調査などができる調査委託は引き続き実施します。



整備された里山

令和2年度事業費 834,000千円
令和2年度計画面積 100ha

③森林整備作業システム構築

間伐の作業効率を上げるために必要な路網整備と高性能林業機械のリース経費を支援する事業です。



森林作業道と林業機械の作業状況

令和2年度事業費 179,200千円(作業道開設)
令和2年度事業費 16,000千円(機械リース)
令和2年度計画延長 250km(開設延長)

④しまの間伐促進

島内需要に制限されることなく森林整備を進めるため、離島から島外に出荷される間伐材の海上輸送費を支援する事業です。

平成29年度から対馬については、国の別事業を活用できるため、五島のみで事業が行われています。



島外出荷状況

令和2年度事業費 6,400千円
令和2年度計画量 3,100m³

⑤ふるさとの森林づくり(市町提案型事業)

地域の森林づくりや県産材の利用促進を目的に、市町や地域のボランティア活動など地域の独自性と創意工夫による取組を支援する事業です。



森林のつどいでの植樹活動

令和2年度事業費 41,000千円
令和2年度計画件数 21件

⑥ながさ木・なごみの街づくり

県産木材の利用を促進するために、木質化及び木製品を県産木材で整備する場合の取組を支援する事業です。「民間のPR効果の高いスペース」及び「民間の教育・保育スペース」を対象としています。

詳しくは当事業のチラシをどうぞ。文末にQRコードを載せております。

令和2年度事業費 10,000千円
令和2年度計画件数 10件



県産木材で作られた広間

⑦県民参加の森林づくり(制度型)

自立した森林ボランティア団体を育成するために、「ながさき森林環境税」の趣旨に即した森林の環境整備活動などを支援する事業です。複数の市町をまたいで活動するものを事業対象としています。



緑の少年団全県交流集会での門松作り

令和2年度事業費 3,000千円
令和2年度計画件数 2件

←昨年度のながさき森林環境税の取組状況

<https://www.pref.nagasaki.jp/share/1571200347.pdf>

<https://www.pref.nagasaki.jp/share/1587015765.pdf>

ながさ木・なごみの街づくりのチラシ→

(林政課 計画調整班)

【特集記事】

五島の木々を活かす、木々に生かされる



民宿『かどもち』と『三兄弟工房』

(写真左) 民宿『かどもち』を切り盛りする葛島志代美さん

(写真右) 『三兄弟工房』の左から葛島広春さん(次男)、義信さん(長男)、信広さん(三男)

日常大工日曜工房

この気の利いたキャッチコピーはいただいたパンフレットから拝借したものです。この言葉のセンスは、3人の中のどなたのものだろうと気になるところです。三人三様の持ち味を持ち寄って、あーでもないこーでもないと話しているうちに、仕事の形が見えてくるとの話でしたので、このフレーズもそうして生まれたものなのでしょう。三兄弟の日々を端的に言い表しながら、十分に「只者ではない」と思わせる、きらりと光る感性を感じます。

言葉の通り、生業は工務店経営、そして仕事が休みの週末には、ツバキやヒノキの未利用材を利用した、木工品工房『三兄弟工房』を経営されています。

民宿『かどもち』

通常家を一軒建てるというと、大工さんの他、基礎屋さん、内装屋さんなどいくつかの業種の職人さんたちが関わりますが、長男の義信さんが経営されている「葛島工務店」に頼むとその全部をそっくり3人でやってしまうとのこと。よほど器用な血筋の家系なのでしょう。その出来栄を見る

事が出来るのが、工房の目と鼻の先にある民宿『かどもち』です。実は義信さんの奥様が切り盛りする民宿で、父親が亡くなり空き家になりかけたご実家をリフォームされたそうです。梁や桁を大胆に見せながら、古民家風の色合いに仕上げているとあり、来訪者にゆったりと落ち着いた時間と空間を提供しています。

一般に「餅まき」という呼び方でなじみがある上棟式。近頃は、省かれることが多くなったこの神事のお供え餅を、宿の看板とするあたりにも、大工職人としてのこだわりを見ることが出来ます。

三兄弟工房

『かどもち』の目と鼻の先に『三兄弟工房』はあります。一歩足を踏み入れると、そこがデザイナーの仕事場ではなく、職人集団のそれであることが一目でわかります。広い展示スペースに、凝ったディスプレイを施すというのではなく、アンティーク風に手作りされた、陳列棚や陳列箱に、キーホルダー、コースター、木のしおり、バターナイフ、ツバキの枝の判子、名刺など、大小様々、多種多様なモチーフの作品が、所狭

しと並べられています。真ん中の大きなテーブルには、完成品と素材とその途中工程のあく抜き作業中のものが同居しておかれています。あく抜き工程で出た真っ黒な水を染め物に使ってみようという飽くなき探究心を示す試作品なども置いてあります。ここはあくまで職人の作業場だと主張するような空間です。それでいながら、並べられた完成品たちはまるで「手に取ってみてくれ」と自信満々に語りかけくるようです。島外の日本料理店や、カフェなどからオーダーメイドの依頼がいくつもあるというのもおおいに頷ける話です。



素材のあく抜き

デジタルと融合した確かなアナログ

作品の特徴は、コンマ数ミリの精度で施された加工です。その精巧さは有無を言わさないものがあります。それを支えるのは、工場の隅に3台導入されたレーザー加工機。三男の信広さんが、制御するパソコンに向かって作業されていました。以前は手彫りで作っていた作品にさらに精巧さが加わったそうです。導入前の手彫り作品を見せていただきましたが、見事に工芸として成立するものでした。そのような手作業技術に裏打ちされているからこそ、機器の性能に頼らない作品の力を彫り出すことが出来るのでしょう。傍らで黙々と手作業に打ち込む二男広春さんの後姿を見ていてそう感じました。

この機械を使うと、ツバキ枝の判子が20分で一つできるというので、家族5人分のものを作ってもらうことにしました。ツバキ枝の判子を選んだのは数ある作品の中で、この作品の「デザインは木が自分でやる」というコンセプトが気に入ったからです。段ボール箱に入れられた材料の中から好き

なものを選んでよいという事でしたので、先端が二股に分かれた30センチほどの一枝を選び、二股部分に私と家内の名前を、その下の部分を3分割して3人の子供たちの名前を彫ってもらい、家族がそれを持ち寄ると、一本の枝が再現できるように注文を出しました。もうじき3人の子供たちがそれぞれ別々の場所で暮らすことになることから注文したのですが、それを聞いた義信さんが感心してくれ、「そのアイデア、頂きます」とおっしゃいました。やはり只者ではありません。

五島とツバキ

工房で生み出される作品の中核をなす素材は言うまでもなく五島ツバキです。この樹種の素材としての優秀性だけでなく、それ以上に五島列島の島民にとってこの木は、特別に愛着を寄せるもののようです。よその現場ではしばしば、下層の幼木等を刈り払って森林公園のようにしてしまい、「見栄えよくなった」とやってしまう場合があります。そんな時はいつも「森は、空間と時間で構成されるものです。下層に未来の人に渡す森を、きちんと育ててください」といった話をします。しかし、この島の現場ではどこも、そんなことは言う必要はなく、ちゃんと未来の人々に渡す、ツバキの幼木が残されていました。この樹種に生かされてきた歴史と島人の心を見ることが出来ます。

『かどもち』と『三兄弟工房』はそれを別の形で見せてくれる、そんな場所です。



五島の材で作られた作品

(NPO法人地域循環研究所)

労災防止のABC



林野庁林業労働対策室労働安全衛生班の資料による令和元年の死亡災害（速報値）は、18道県による31人となっており、平成30年と同数でした。死亡した31人の内訳は、伐木作業中が20人、集材作業中が3人、その他の作業中が8人でした。集材とその他作業の11人のうち、7人はトラックや自動車が転落等して被災しています。

長崎県内の死亡者は平成28年以降発生していませんが、九州では依然として多くの死亡者が発生しており「林業死亡労働災害多発警報」が発令されるなど、より一層の労働災害防止に取り組む必要があります。



県北振興局では、労働安全衛生規則の改正による伐木作業等における安全対策の強化を実施するため、林業・木材製造業労働災害防止協会長崎県支部長が任命した2名の安全衛生指導員と合同で安全巡回指導を行いました。

巡回指導した現場では、安全旗を掲揚するなどの現場における安全意識の高揚に努める事や、下肢の切創防止用保護衣の着用を行うなど労働災害防止に努めていました。

労働災害は、技術力不足や知識力不足、油断や整備不良などの直接要因によるもの他に、体調不良や睡眠不足、ストレスによる判断力低下など間接要因により発生する場合があります。

労働災害防止のため、防護衣等の着用や危険作業の禁止など、A（あたりまえのことを）B（ばかにせず）B（ばかにされても）C（ちゃんとやる）活動を行い、現場技術者は自分の身は自分で守る事が重要です。自身の健康と安全、併せて、家族や同僚の安心を守り、明日からも楽しく山仕事を行いましょう。

（県北振興局林業課）

地方だより

ツクシシャクナゲの植樹が行われました！

令和2年3月7日（土）、諫早市高来町のしゃくなげ高原において、高来町山林協議会主催により、ツクシシャクナゲの植樹が行われました。

毎年、同協議会主催のツクシシャクナゲ植樹祭が実施されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため今年では中止となりました。そのため今回の植樹は、諫早市、長崎南部森林組合諫早支所など約30名の関係者のみでの作業となりました。当日は雨がぱらつき、低い気温の中での作業でしたが、200本のツクシシャクナゲを植栽しました。



植栽したツクシシャクナゲ

高来町山林協議会

湯江山林会、NPO法人おえ小江山林会、うら宇良山林保護組合、ふかのみ深海地区山林財産管理組合でつくる協議会で、市民が山に親しみ、山や緑の大切さを理解してもらうため、環境整備に努めることを目的として平成18年度に設立しました。

設立当初は、里山再生活動や森林環境教育活動などのボランティア活動を実施され、平成23年度からは、ツクシシャクナゲの植栽や劣悪木の伐採など環境整備を進め、ツクシシャクナゲ林を再生しました。現在は、並行して「木の駅たかき～たかき・すてき・いきいきプロジェクト～」にも取り組んで、林地

残材の有効利用を図っています。



植栽作業の様子

終わりに…

高来町山林協議会は諫早市と連携し、令和4年度までに、しゃくなげ高原や轟峡上流に約3,000本のツクシシャクナゲを植栽する計画を立てています。令和元年度までに、2,650本を植栽しており、引き続き、諫早市とともに支援していきたいと考えています。

ツクシシャクナゲは、4月下旬から5月にかけて淡いピンク色の花を咲かせます。ぜひしゃくなげ高原を訪れて、ご覧になってください。



可憐に花を咲かせるツクシシャクナゲ

(県央振興局 林業課)

地方だより

～ 活躍人紹介 ～ 壱岐市森林組合



壱岐市森林組合 さだむら てっぺい 定村 鋼平 さん

はじめに

壱岐市では、スギ・ヒノキの人工林面積が少なく、壱岐産材の島内需要も少ないことから、壱岐市森林組合では近年まで木材生産の実績はなく、切捨間伐や天然林整備、または個人や建設業者からの伐採・除草依頼等が事業の中心となっています。そのため、特殊伐採等の技術が高く、危険木の伐採など、壱岐市森林組合にしかできない仕事もあり、多くの依頼をこなしています。

そんな壱岐市森林組合の中でも、最年少で活躍されている定村鋼平さんを紹介します。

定村鋼平さん

定村さんは平成 11 年生まれで現在 21 歳。生まれも育ちも壱岐で、奥さんとお子さん 2 人の 4 人暮らしです。釣りやアウトドアが趣味で、自然の中で仕事がしたいと考えていた時に壱岐市森林組合の求人を見て、就職を決めました。

「実際に林業の仕事をしてみると、ただ単に木を伐るだけではなく、危険な作業や力仕事が多く大変だけど、一つ一つの作業をこなし、現場が終わって、暗い山が明るくなったときにやりがいを感じる。」と話されました。作業班の先輩方にアドバイスをもらいながら、楽しく仕事をされているようです。

定村さんは現在森林組合に入って 1 年半。

「まずは 3 年間の「緑の雇用」の研修を無事に終えて、幅広く仕事ができるように知識と技術を磨いていきたい。怪我や事故を起こさないように、緊張感を持ってこれからも仕事を頑張りたい。」とこれからの抱負について語りました。

おわりに

壱岐市森林組合では平成 30 年度から島内初となる搬出間伐を県営林で実施しており、今後は私有林でも搬出間伐による出荷で木材の販売収入を所有者へ還元できるように、作業効率や生産性の向上に取り組んでいます。これまで実績のなかった木材生産にも取り組み始め、今後ますます活躍が期待される壱岐市森林組合において、若い力が着実に育っていることに頼もしさを感じます。

これからより一層、壱岐の林業が発展していけるように協力して作業に取り組んでいきたいと思います。



神社裏の大径木の枝落とし作業中

(壱岐振興局 農林整備課)

林業団体情報

森林組合は長崎県の森林を守り育てています 長崎県森林組合連合会

森林組合と森林組合連合会

森林組合は、森林組合法によって設立され、森林所有者が組合員となって組織されている協同組合です。森林組合には高い林業技術をもったスタッフが充実しており、県内の森林整備の多くを担うとともに、地域の森林づくりや組合員の森林経営に関する各種要望に応えています。また、木材供給のほか国土保全、水資源涵養、環境保全、文化・教育・レクリエーションの場となる森林の保全に重要な役割を持つ組織です。

そして、その森林組合を取りまとめる上部団体として都道府県単位の森林組合連合会、さらにその上に全国森林組合連合会が設置されており、長崎県には、8つの森林組合と1つの連合会があります。

組織名	所在地	組織名
長崎県森林組合連合会	諫早市貝津町	0957-27-1755
長崎南部森林組合	大村市大川田町	0957-55-6610
東彼杵郡森林組合	東彼杵郡川棚町	0956-82-3525
雲仙森林組合	雲仙市小浜町	0957-74-3147
長崎北部森林組合	北松浦郡佐々町	0956-63-2305
平戸市森林組合	平戸市宝亀町	0950-28-0151
五島森林組合	五島市吉田町	0959-72-5336
壱岐市森林組合	壱岐市芦辺町	0920-45-4040
対馬森林組合	対馬市厳原町	0920-52-2677

長崎県森林組合及び連合会

森林組合連合会のしごと

森林組合が協同して事業の振興を図り、組合員の経済的・社会的地位の向上並びに森林の持続培養・森林生産力の増進を図ることを目的に次の業務を実施しています。

●販売事業

建築用材となる原木を中心とした「委託販売事業」と、合板、輸出用材やバイオマスなどの「買取販売事業」を実施しております。

また、「長崎ひのき間伐材」を利用した小物製品の企画・販売なども行っています。

●指導事業

長崎県下 8 森林組合の会員を対象に森林組合

の組織、経営基盤の強化を図るための指導や研修会・講習会の開催等行うとともに、優秀な新規林業就労者の確保・育成のため緑の雇用事業を実施しています。



緑の雇用研修

●利用事業

森林の調査及び評価、森林整備に繋がるバイオマス等の取組、災害に備える森林保険業務などを行っています。

さらに、木に親しみ森林を次世代に引き継ぐための木育にも取り組んでいます。



ながさき木育プログラム（対馬市）

おわりに

森林・林業についてご相談があれば、お近くの森林組合または連合会にご連絡ください。専門のスタッフが対応しております。

長崎県森林組合連合会

検索



センターだより

ヒノキエリートツリー検定林の状況

はじめに

エリートツリー及びその集団から選抜された特定母樹については、スギに関する研究が先行していますが、本県に必要なヒノキに関しては情報が少ないのが現状です。

そこで、九州育種場、雲仙市の協力を得て平成29年3月に雲仙市国見町の市有林に表1のとおりヒノキエリートツリー等の7系統コンテナ苗を植栽し、検定林を設置しました。

植栽して2年経過後の調査結果を報告します。

系統	本数
九育 2-71	56
九育 2-83	56
九育 2-92 (候補木)	56
九育 2-95	56
九育 2-96	56
九育 2-101 (候補木)	56
対照普通苗	56

表1 系統と植栽本数

調査結果について

①成長

樹高、根元径、形状比の平均値は表2のとおりです。

系統	樹高 (cm)	根元径 (mm)	形状比
九育 2-71	158.1	23.4	67.6
九育 2-83	163.3	21.1	77.4
九育 2-92	145.9	21.1	69.1
九育 2-95	166.2	23.8	69.8
九育 2-96	158.0	23.2	68.1
九育 2-101	166.7	22.4	74.4
対照普通苗	154.2	20.4	75.6

表2 成長調査結果 (平均値)

これまでのところ、系統間差、特に対照普通苗に対するエリートツリーの優位性について明瞭な差は出ていません。スギの事例では、3年目以降徐々に品種の持つ特性が表れてくるようです。

②下刈省力化の可能性

エリートツリーに期待するのは下刈り回数削減です。令和元年7月の下刈り前にヒノキ周辺の雑草木の高さを調べてみました(図1)。

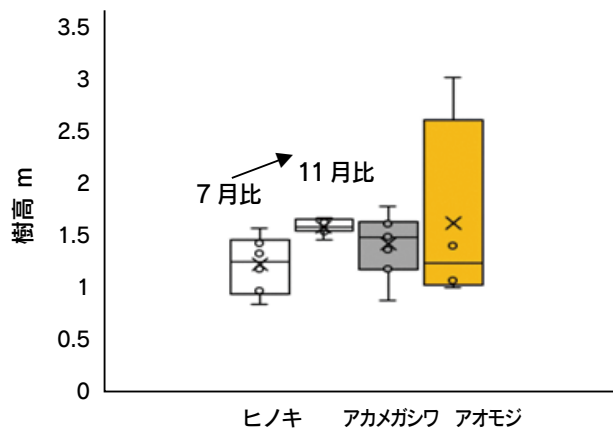


図1 樹高比較

上層を構成するアカメガシワは1.5m、アオモジは更に高く伸びています。ヒノキも11月時には樹高1.5mまで成長したのですがアオモジにはまだまだ及びません。

長崎の場合はアオモジの有無が低コスト育林にも影響することになります。

終わりに

エリートツリーはそれぞれの植栽地で優れた評価を受けたものですが本県内の植栽地で同じ性質を発揮できるのかは不明です。このため、検定林の継続調査と全国のヒノキ特定母樹(九州では1品種しかない)を収集し、その適性を調査していく計画です。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー ミライ on 図書館



ミライ on 図書館は令和元年10月、長崎県大村市にオープンした県市一体型図書館です。施設愛称は一般公募約1500作品の中から選ばれ「現在と過去のことを多く知ること、未来の自分のためのスイッチをONにできる場所になってほしい」との想いが込められています。

館内に入るとまず目に入るのは、対馬産スギをふんだんに使った高い天井と、自然光に包まれた広いエントランス。館内には、船を模ったベンチやスギ木目の美しい本棚が並び、レンガ造りの壁や大村の海の青さ

を思わせる柔らかな絨毯など、長崎らしいインテリアに囲まれながら本に親しむことができます。ヒノキやスギ等の木の温もりや触感、心地よさを感じながら憩い・集いの場として思い思いの時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

ミライ on 図書館

〒856-0831

住所：長崎県大村市東本町 481

電話：0957-48-7700/FAX：0957-48-7703

開館時間：火曜から金曜 10時～20時

土日・祝日 10時～18時

休館日：毎週月曜（祝日の場合は翌日）

公式 HP：<https://miraionlibrary.jp/>

伊万里木材市況

【ヒノキ】 市売りは中止

令和2年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	15,000	多い	少ない	少ない
	16～18	小曲り	13,000	多い	少ない	少ない
	20～22	直	15,000	多い	少ない	少ない
	20～22	小曲り	13,000	多い	少ない	少ない

【スギ】

令和2年4月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	12,000	少ない	普通	普通
	18～22	小曲り	12,000	少ない	普通	普通
	24～26	直	12,000	少ない	普通	普通
	24～26	小曲り	12,000	少ない	普通	普通

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

シイタケのコマ打ち体験 in 佐世保中央保育園



佐世保中央保育園の皆さん

3月19日（木）、佐世保市梅田町の佐世保中央保育園にて、今回で2回目となるシイタケのコマ打ち体験が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、規模を縮小しての開催となりましたが、保護者をはじめ多くの方々のご協力により無事に開催する運びとなり、園児25名が参加しました。

はじめに座学で、キノコの種類や特徴、注意点など写真や本物を交えながらキノコについて学びました。園児らは様々な形や色をしたキノコに興味津々で、時折歓声を上げながら、手を挙げて活発に発言するなど楽しく学びを深めることが出来ました。中でも毒キノコについては、身を乗り出して話を聞く子や、目を手で覆いながらもこっそり指の間から写真を見る子など反応は様々で、後ろから見守る保護者の方々も熱心に説明や注意事項を聞いてくださったようでした。



キノコについて熱心に学ぶ園児

続いて、事前に用意して頂いたマテバシイの原木の穴あけ作業を見学した後、空いた穴にシイタケの種コマを植え付けました。最初は怖々触っていた種コマにもすぐに慣れ、保

護者や先生方の手助けを受けながら上手に金づちを使い、お友達と協力しながら真剣な面持ちでコマ打ちをする姿が印象的でした。初めて種コマを触ったという園児らからは「柔らかーい!」、「キノコのおいがする!」など楽しそうな声が響いていました。



マテバシイの原木にコマ打ち

最後に

同保育園は食育・徳育の活動が盛んな保育園です。10年前、150名以上の関係者が参加した世知原町の国有林での植樹に始まり、5年前から園内でシイタケ栽培を始めました。収穫したシイタケで作る給食は人気メニューとなっているそうです。普段何気なく口にしている食べ物がどのように育ち、食卓に並ぶのか、子ども達が楽しく「森の恵み」を学ぶ工夫がなされていました。

「三つ子の魂百まで」をモットーにご尽力いただいた田平南小緑の少年団の浦田氏をはじめ関係者の想いがつまった今回のコマ打ち体験。学びに実体験を重ね合わせることで、素直な感動が記憶に残り、またひとつ力をつけた子ども達の成長が楽しみです。

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 5月号 第776号

編集・発行 長崎県林政課

住所：長崎県長崎市尾上町3番1号

電話：095-895-2988

ファクシミリ：095-895-2596

メールアドレス：

s07090@pref.nagasaki.lg.jp